

光の子



No.129 2008.3.20

●一粒の麦は、地に落ちて死ななければ、一粒のままである。

だが、死ねば、多くの実を結ぶ。（ヨハネ福音書12章24節）



「今年もパンジーが咲きました」

挿絵・中島英子

「旅日記」

豊年の風が捲れる旅日記

遙かより来て遙かへと秋日傘

しながきに主人の一ヶ月の宿

しまひ湯に桶ひびかせて十三夜

暗がりになにかを踏んで神の留守

冬の紅葉掃き寄せられて華やげり

悴める一人を載せて人力車

俳人
黛
まどか

ひかりのこ No.129

入学、進学という子どもたちひとりひとりにとっての大きな環境の節目の時もあります。かかる私たち欠けだらけの存在ですが、それにもかわらず、こんなに豊かに成長させていただいている子どもと共にまた一年を共に過ごせましたことを、ご支援とあわせて心から感謝致します。

定員という人数の枠組みと退所による空きとをにらみ合わせて、また入所依頼が続く季節となりました。空きはなく、いつも満員であるということの重さが何を意味するのか：思いは複雑です。ですが、できるとかできないとかを超えて、ここを必要とする子どもたちの家となること、居場所をつくること、これ以外にわたしたちの役割はありません。

また幼い仲間が加わりました。初めての出会い。何回も経験してきた私たちでさえ緊張を強いられるのですから、子どものころはどんなでしょうか。その不安が少しでも軽くなれば……と担当予定者は二回、三回と入所前に会いに出かけます。ちょっと抱っこでかるような関係「待ってるよ」との歓迎のメッセージを届けることが、こちらでの落ち着いた生活へ導入するがかりになってしまいます。

担当者との一対一の最も身近な人間関係を中心に、グループの、そしてその家の仲間たちに守られ、かわいがられ、ずっと前から光の子どもの家にいるような安心感をもてるのもあって、う間のことでしょう。私たち大人を超えて寛容であり、優しい子どもたちでしまうのではと気が気ではない表情もみれます。その気持ちは幼い子ばかりとは限りません。ちょうど家庭に赤ちゃんが生まれたばかりの、ちょっと年上の兄弟姉妹という様子でしょうか。必要ながまんもあります。ここは一気に「兄」「姉」になってしまいます。自分がここへきた日のことに思いをはせることも多いでしょう。

それぞれに入所した日、出会いの日があります。その日を第二の誕生日と意味づけて成長を振り返る時としています。その時からつくりはじめたこので暮らしの中で見せるたくさんの表情を忘れません。大きな泣き声もかたく閉ざした目も、片隅で固まってしまふた体も、そして何もできなくて立ちつくすだけだった自身のことも含めて、そんな時間を作ります。すでに「私の小さかった頃の話、きかせて」というリクエストもあります。すでにその子どもたちも含めて親戚状態は増しています。

一番寒いこの季節に芽を出し、花を咲かせ葉を茂らせる準備がなされています。はじめの一歩を踏み出したばかりの子どもも、この家を出た子どもも、それぞれの場で自分なりの居場所を持っています。

生活の三大要素、衣食住の中で住はが、「出会い」から始まる関係です。

これまでに生活そのものの拠点。物理的スペースのみならず、人が身を落ち着けている場所と、関係である「居場所」を持つためには、根を降ろせるだけの深さと豊かさがなくてはなりません。

この年度も、一年を振り返るひとと

きを迎えた。卒業、卒園、そしてそ

の家の仲間たちひとりひとりひ

どりにとつての大きな環境の節目の時

でもあります。かかる私たち欠け

だらけの存在ですが、それにもかかわ

らず、こんなに豊かに成長させていた

だしている子どもと共にまた一年を共

に過ごせましたことを、ご支援とあわ

せて心から感謝致します。

定員という人数の枠組みと退所によ

る空きとをにらみ合わせて、また入所

依頼が続く季節となりました。空きは

なく、いつも満員であるということの

重さが何を意味するのか：思いは複雑

です。ですが、できるとかできないと

かを超えて、ここを必要とする子ども

たちの家となること、居場所をつくる

こと、これ以外にわたしたちの役割は

ありません。

また幼い仲間が加わりました。初め

ての出会い。何回も経験してきた私た

ちでさえ緊張を強いられるのですから、

子どものころはどんなでしょうか。

その不安が少しでも軽くなれば……と

当担当予定者は二回、三回と入所前に会

いに出かけます。ちょっと抱っこでかる

ような関係「待ってるよ」との歓迎の

メッセージを届けることが、こちらで

の落ち着いた生活へ導入するがかり

になってしまいます。

担当者との一対一の最も身近な人間

関係を中心に、グループの、そしてそ

の家の仲間たちひとりひとりひ

どりにとつての大きな環境の節目の時

でもあります。かかる私たち欠け

だらけの存在ですが、それにもかかわ

らず、こんなに豊かに成長させていた

だしている子どもと共にまた一年を共

に過ごせましたことを、ご支援とあわ

せて心から感謝致します。

定員という人数の枠組みと退所によ

る空きとをにらみ合わせて、また入所

依頼が続く季節となりました。空きは

なく、いつも満員であるということの

重さが何を意味するのか：思いは複雑

です。ですが、できるとかできないと

かを超えて、ここを必要とする子ども

たちの家となること、居場所をつくる

こと、これ以外にわたしたちの役割は

ありません。

また幼い仲間が加わりました。初め

ての出会い。何回も経験してきた私た

ちでさえ緊張を強いられるのですから、

子どものころはどんなでしょうか。

その不安が少しでも軽くなれば……と

当担当予定者は二回、三回と入所前に会

いに出かけます。ちょっと抱っこでかる

ような関係「待ってるよ」との歓迎の

メッセージを届けることが、こちらで

の落ち着いた生活へ導入するがかり

になってしまいます。

担当者との一対一の最も身近な人間

関係を中心に、グループの、そしてそ

の家の仲間たちひとりひとりひ

どりにとつての大きな環境の節目の時

でもあります。かかる私たち欠け

だらけの存在ですが、それにもかかわ

らず、こんなに豊かに成長させていた

だしている子どもと共にまた一年を共

に過ごせましたことを、ご支援とあわ

せて心から感謝致します。

定員という人数の枠組みと退所によ

る空きとをにらみ合わせて、また入所

依頼が続く季節となりました。空きは

なく、いつも満員であるということの

重さが何を意味するのか：思いは複雑

です。ですが、できるとかできないと

かを超えて、ここを必要とする子ども

たちの家となること、居場所をつくる

こと、これ以外にわたしたちの役割は

ありません。

また幼い仲間が加わりました。初め

ての出会い。何回も経験してきた私た

ちでさえ緊張を強いられるのですから、

子どものころはどんなでしょうか。

その不安が少しでも軽くなれば……と

当担当予定者は二回、三回と入所前に会

いに出かけます。ちょっと抱っこでかる

ような関係「待ってるよ」との歓迎の

メッセージを届けることが、こちらで

の落ち着いた生活へ導入するがかり

になってしまいます。

担当者との一対一の最も身近な人間

関係を中心に、グループの、そしてそ

の家の仲間たちひとりひとりひ

どりにとつての大きな環境の節目の時

でもあります。かかる私たち欠け

だらけの存在ですが、それにもかかわ

らず、こんなに豊かに成長させていた

だしている子どもと共にまた一年を共

に過ごせましたことを、ご支援とあわ

せて心から感謝致します。

定員という人数の枠組みと退所によ

る空きとをにらみ合わせて、また入所

依頼が続く季節となりました。空きは

なく、いつも満員であるということの

重さが何を意味するのか：思いは複雑

です。ですが、できるとかできないと

かを超えて、ここを必要とする子ども

たちの家となること、居場所をつくる

こと、これ以外にわたしたちの役割は

ありません。

また幼い仲間が加わりました。初め

ての出会い。何回も経験してきた私た

ちでさえ緊張を強いられるのですから、

子どものころはどんなでしょうか。

その不安が少しでも軽くなれば……と

当担当予定者は二回、三回と入所前に会

いに出かけます。ちょっと抱っこでかる

ような関係「待ってるよ」との歓迎の

メッセージを届けることが、こちらで

の落ち着いた生活へ導入するがかり

になってしまいます。

担当者との一対一の最も身近な人間

関係を中心に、グループの、そしてそ

の家の仲間たちひとりひとりひ

どりにとつての大きな環境の節目の時

でもあります。かかる私たち欠け

だらけの存在ですが、それにもかかわ

らず、こんなに豊かに成長させていた

だしている子どもと共にまた一年を共

に過ごせましたことを、ご支援とあわ

せて心から感謝致します。

定員という人数の枠組みと退所によ

る空きとをにらみ合わせて、また入所

依頼が続く季節となりました。空きは

なく、いつも満員であるということの

重さが何を意味するのか：思いは複雑

です。ですが、できるとかできないと

かを超えて、ここを必要とする子ども

たちの家となること、居場所をつくる

こと、これ以外にわたしたちの役割は

ありません。

また幼い仲間が加わりました。初め

ての出会い。何回も経験してきた私た

ちでさえ緊張を強いられるのですから、

子どものころはどんなでしょうか。

その不安が少しでも軽くなれば……と

当担当予定者は二回、三回と入所前に会

いに出かけます。ちょっと抱っこでかる

氣がつくと、椅子に座つて朝焼けを眺めはじめてからもう十五分も経っている。よく朝焼けはきれいだといわれるが、今日はそんなものではない。なにか引き込まれていきそうな、おそろしささえ感じる。あえて色で表現しようとなれば、黒昧をおびた赤色といつたところだが、朝焼けが良いのは、刻々と色が変わって、間もなく光り輝く太陽が顔を出し、何事もなかったように、明るい世界が始まつたようだ。

それでも、朝焼けを十五分も眺めていたことなどこれまでなくて、生まれて初めてである。涙が出てくる。もちろん異国で淋しく一人暮らしをしている老人の感傷なのだが、朝焼けをゆっくりと眺めることがなかつたわが生を想い、今それができていることが

最近、本当に久しぶりに小説を読んだ。「隠蔽（いんぺい）捜査（今野敏、新潮文庫）」で、キャリア警察官僚が主人公である。そこで彼は官僚として正義を貫こうとしている。ある殺人事件を上層部がもみ消そうとしたが、彼はそれに抵抗する。さらに、自分の息子が麻薬事件を起こしたとき、彼は自分のキャリアが傷つくことを承知でそれをもみ消さず、正義を貫く。とてもすがすがしかった。それは、私たちの社会では、自分や自分の属する組織の利益を優先して、筋を通さず、隠し事をしてしまうことが多いのを体験するからである。

私は、人として、親として、それぞれの社会的な立場にある者として、できるだけ筋を通していと願う。しかし、実際は筋を通すことができないことが多いよう気がする。筋を通すべきときに、大勢に流されたり、反対に、柔軟に対処するべきときに自分のもつこだわりを押し通してしまうこと

筋の通つた歩み

日本キリスト福音教会連合 浜田山教会 牧師 奥田 健一

地球の裏側に位置するこのパラグアイの国に来てもう二ヶ月も経つ。日本とほぼ同じ大きさの国土に六百万の人たちが住む。首都のアスンシオンは結構人口密度は高いと思うが、北部には広大な不毛の地が横たわる。

日系人は七千人ほどで、人口の一%程度だが、社会的な地位は高い。この国は農業国で、農産物の輸出が国の経済にとって重要であるが、主要な輸出農産物の大豆は、日本から移民した人々がその作付けに初めて成功したことなどから、日系の人々は敬意をもつて見られているのである。

しかし、私がいまお世話になっているアスンシオン大学保健科学研究所の日系のドクトー（女性研究者）の話によると、以前は大学も含めて学校でトップグループは日系の学生だったが、最近は韓国系の学生にとつて代わられつづることと、外國からの投資があること、外國からの投資があること、外國からの投資があることなどが、以前はたしか人通りの多いセントロと呼ばれる繁華街だけでも見られたが、いまではあまり人通

ても嬉しく、地球の裏側までやってきてよかつたなあと感じるのである。

地球の裏側に位置するこのパラグアイの国に来てもう二ヶ月も経つ。日本とほぼ同じ大きさの国土に六百万の人たちが住む。首都のアスンシオンは結構人口密度は高いと思うが、北部には広大な不毛の地が横たわる。

朝焼けに涙するとき

JICAシニア海外ボランティア 仙道 富士郎

朝焼けが良いのは、刻々と色が変わって、間もなく光り輝く太陽が顔を出し、何事もなかつたように、明るい世界が始まつたようだ。

それでも、朝焼けを十五分も眺めていたことなどこれまでなくて、生まれて初めてである。涙が出てくる。もちろん異国で淋しく一人暮らしをしている老人の感傷なのだが、朝焼けをゆっくりと眺めることがなかつたわが生を想い、今それができていることが

泡のよくたつ石鹼が好きで、日本にいたときも選んで買っていた。ところが、以前このホテルに泊まつたときは、ホテルの石鹼はほとんど泡立たず、シャワーを浴びたときに長逗留になるからと、わざわざ日本から石鹼を持参した。ところが、いまホテルの石鹼の泡立ちはとても良く、日本から持つてきたものと遜色がない。トイレットペーパーの質も格段に良くなっている。

一方街角でぐつたりした赤ん坊を抱いて物乞いをする人たちの様は変わっていない。というよりも、トペーパーの質も格段に良くなっている。

いざれにしても、スペイン語の新聞もろくに読めない者が大上段に構えて「この国は——」などと言つたりしないよう心掛けたいと思っている。私はパラグアイの国にも確実に及んでいます。むしろ、多くの人たちが十分な食事もできないという事実に発展途上国としての問題があるのかもしれない。

I C A (国際協力機構) パラグアイ事務所で行われたパラグアイ警察の現職警官による安全管理に関するレクチャーのなかで、この国で犯罪が急激に増加していることの理由として、貧困層の増加を挙げ、国民の四〇%の人々が一日一食の生活を強いられていると聞かくなっている。

本にいたときも選んで買っていた。ところが、以前このホテルに泊まつたときは、ホテルの石鹼はほとんど泡立たず、シャワーを浴びたときに長逗留になるからと、わざわざ日本から石鹼を持参した。ところが、いまホテルの石鹼の泡立ちはとても良く、日本から持つてきたものと遜色がない。トイレットペーパーの質も格段に良くなっている。

一方街角でぐつたりした赤ん坊を抱いて物乞いをする人たちの様は変わっていない。というよりも、トペーパーの質も格段に良くなっている。



私は最近、聖書を読む時、この人間の罪深さ、弱さ、どころども従われました。それゆえ神はこ

した部分を、自分やこの社会を覚えつつしつかり受け止める必要を覚えている。聖書ほど、人間の現実を隠さないで、記している書物はないと痛感している。理想や建前ではなく、筋を通しているのだ。

さらに、聖書は、人間は自分勝手でどうしようもない存在だ、とか悩むことが多い。決断しなければならないときに、それは本当に神の願っていることなのか、それとも私自身のこだわりなのか、それとも自分の立場を守ろうとするところからくる（浅知恵なのか、いつも問われる）。

私は最近、聖書を読む時、この人間の罪深さ、弱さ、どころども従われました。それゆえ神はこ

りの多くの道端でもかなり見られる。いざれにしても、スペイン語の新聞もろくに読めない者が大上段に構えて「この国は——」などと言つたりしないよう心掛けたいと思っている。私はパラグアイの国にも確実に及んでいます。むしろ、多くの人たちが十分な食事もできないという事実に発展途上国としての問題があるのかもしれない。

I C A (国際協力機構) パラグアイ事務所で行われたパラグアイ警察の現職警官による安全管理に関するレクチャーのなかで、この国で犯罪が急激に増加していることの理由として、貧困層の増加を挙げ、国民の四〇%の人々が一日一食の生活を強いられていると聞かくなっている。

いざれにしても、スペイン語の新聞もろくに読めない者が大上段に構えて「この国は——」などと言つたりしないよう心掛けたいと思っている。私はパラグアイの国にも確実に及んでいます。むしろ、多くの人たちが十分な食事もできないという事実に発展途上国としての問題があるのかもしれない。

家族に闇わる その22

菅原 哲男

芹沢俊介著「もう一度親子になりたい」刊行によせて

芹沢俊介氏が表記のように「もう一度親子になりたい」を出版した。

我が国の家族関係のいわゆる家族力が衰え、希薄になつてきていることはすでに繰り返し言わされていてことである。しかし、だからどうすればいいのか、という点については百家争鳴の感を禁じ得ない。どれもそのようであるし、そうかなあと二の足を踏むようなものもある。

しかし、二人の異性が一緒に暮らしたいと願い、暮らすことを決意し、あまつさえ友人知人をはじめ家族などを招いて決意を語り祝福されて家族の原点を形成しているのである。その二人の暮らしの中で新しいのちが誕生して家族という形が社会的にも認知されることになるのである。そうして形成された家族は「家族である」と言うことに何の差し障りもない。それで何の疑いもなく極く当然のように「家族である」という地點からの暮らしが続けられていくのである。

ところが、里親・里子や乳児院・

児童養護施設などでは「親子ではない」「家族ではない」者たちが親子や家族になるはたらきを日常的にしているのである。

芹沢氏の着眼はこの点にあつたことを最初に開示している。

この本は、わたしたちの仲間であり働きのあり方について教示を受けなどの支援を頼っている家庭養護促進協会(〒五四三一〇〇二一大阪市天王寺区東高津町一二一〇〇六一六七六二一五三九)を四〇年ほど前に設立し大阪事務所(以下

協会と表す)でその中心的役割を演じた岩崎美枝子氏のはたらきを取り上げ、芹沢氏の持論であるinosensの表出とその受け止めという子どもへの基本的な関わりの理念を駆使して、平明でやさしい表現で書かれた分かりやすい育児書とも言えるものである。

第一章〈親子になる〉こととして、生物学的血縁の親子は〈親子である〉とし、社会的な養育の必要な〈親子になる〉という二種類の大側面の関わりについて丁寧に整理し、協会で

岩崎氏が発行してきた機関紙や刊行物を取り上げ参照しながら生物学的血縁の親子にも、親子になるというはたらきの必要なものであつたこと

を明らかにしている。親子であるというアブリオリな関係の見直しと親子関係形成までの道筋を示している。

第二章母親を求めて、母親を得たよりも適切に整理し深めて養育のあり方を論じられている。協会の設立も児童養護施設などの施設に任せおいたらこの国の大社会的養育で育つた子どもの自立はおぼつかないという点にあつたのである。そして

芹沢氏が本書を貰く最も大きな主張の一つが協会の設立の理念や動機と重なるのである。

第八章〈親子になること〉がむずかしいわけでは里親であれ、一般の家族であれ、待てないのは親や大人のほうであり、乱暴は生まれつきではないことを丁寧に示し、それへの関わり方を明解に力説されている。

芹沢氏が本書を貰く最も大きな主張の一つが協会の設立の理念や動機と重なるのである。

第三章〈親子になること〉がむずかしいわけでは里親であれ、一般の家族であれ、待てないのは親や大人のほうであり、乱暴は生まれつきではないことを丁寧に示し、それへの関わり方を明解に力説されている。

この書は、親子にならなければならぬ社会的養育に関する者にとって必携の書であると断言する。

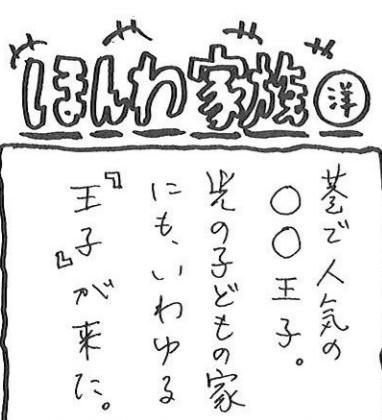
第四章子どもが伝えるinosensでは、氏の哲学や理念に基づいた子育て的具体的あり方について詳しく述べながら、暴力的な子どもの表現や過食などの意味とそれへの対応を示している。

第五章「ママ」といわれて「ママ」になる、から第六章「私だけを受け止めて、第七章「星の王子様」までおっぱいを受け止めることと言ふことである。

第四章子どもが伝えるinosensでは、氏の哲学や理念に基づいた子育て的具体的あり方について詳しく述べながら、暴力的な子どもの表現や過食などの意味とそれへの対応を示している。

第五章「ママ」といわれて「ママ」になる、から第六章「私だけを受け止めて、第七章「星の王子様」までおっぱいを受け止めることと言ふことである。

第六章「ママ」といわれて「ママ」になる、から第六章「私だけを受け止めて、第七章「星の王子様」までおっぱいを受け止めることと言ふことである。



岩崎氏が発行してきた機関紙や刊行物を取り上げ参照しながら生物学的血縁の親子にも、親子になるというはたらきの必要なものであつたことを明瞭にしている。親子であるというアブリオリな関係の見直しと親子関係形成までの道筋を示している。

第二章母親を求めて、母親を得たよりも適切に整理し深めて養育のあり方を論じられている。協会の設立も児童養護施設などの施設に任せおいたらこの国の大社会的養育で育つた子どもの自立はおぼつかないという点にあつたのである。そして

芹沢氏が本書を貰く最も大きな主張の一つが協会の設立の理念や動機と重なるのである。

第八章〈親子になること〉がむずかしいわけでは里親であれ、一般の

家族であれ、待てないのは親や大人のほうであり、乱暴は生まれつきで

はないことを丁寧に示し、それへの

関わり方を明解に力説されている。

この書は、親子にならなければならぬ社会的養育に関する者にとって必携の書であると断言する。

光の子どもの家では、子どもを受

け入れたときからその子どもの家族

と私たちが家族になるという決意を

前提に関わってきている。それでも

欠けばかりにはたらきではあるが。

本書は子育てに当たる者全ての人

の必読書でもある。

第八章〈親子になること〉がむずかしいわけでは里親であれ、一般の

家族であれ、待てないのは親や大人のほうであり、乱暴は生まれつきで

はないことを丁寧に示し、それへの

関わり方を明解に力説されている。

この書は、親子にならなければならぬ社会的養育に関する者にとって必携の書であると断言する。

光の子どもの家では、子どもを受

け入れたときからその子どもの家族

と私たちが家族になるという決意を

前提に関わってきている。それでも

欠けばかりにはたらきではあるが。

本書は子育てに当たる者全ての人

の必読書でもある。

第八章〈親子になること〉がむずかしいわけでは里親であれ、一般の

家族であれ、待てないのは親や大人のほうであり、乱暴は生まれつきで

はないことを丁寧に示し、それへの

関わり方を明解に力説されている。

この書は、親子にならなければならぬ社会的養育に関する者にとって必携の書であると断言する。

光の子どもの家では、子どもを受

け入れたときからその子どもの家族

と私たちが家族になるという決意を

前提に関わってきている。それでも

欠けばかりにはたらきではあるが。

本書は子育てに当たる者全ての人

の必読書でもある。

第八章〈親子になること〉がむずかしいわけでは里親であれ、一般の

家族であれ、待てないのは親や大人のほうであり、乱暴は生まれつきで

はないことを丁寧に示し、それへの

関わり方を明解に力説されている。

この書は、親子にならなければならぬ社会的養育に関する者にとって必携の書であると断言する。

光の子どもの家では、子どもを受

け入れたときからその子どもの家族

と私たちが家族になるという決意を

前提に関わってきている。それでも

欠けばかりにはたらきではあるが。

本書は子育てに当たる者全ての人

の必読書でもある。

第八章〈親子になること〉がむずかしいわけでは里親であれ、一般の

家族であれ、待てないのは親や大人のほうであり、乱暴は生まれつきで

はないことを丁寧に示し、それへの

関わり方を明解に力説されている。

この書は、親子にならなければならぬ社会的養育に関する者にとって必携の書であると断言する。

光の子どもの家では、子どもを受

け入れたときからその子どもの家族

と私たちが家族になるという決意を

前提に関わってきている。それでも

欠けばかりにはたらきではあるが。

本書は子育てに当たる者全ての人

の必読書でもある。

第八章〈親子になること〉がむずかしいわけでは里親であれ、一般の

家族であれ、待てないのは親や大人のほうであり、乱暴は生まれつきで

はないことを丁寧に示し、それへの

関わり方を明解に力説されている。

この書は、親子にならなければならぬ社会的養育に関する者にとって必携の書であると断言する。

光の子どもの家では、子どもを受

け入れたときからその子どもの家族

と私たちが家族になるという決意を

前提に関わってきている。それでも

欠けばかりにはたらきではあるが。

本書は子育てに当たる者全ての人

の必読書でもある。

第八章〈親子になること〉がむずかしいわけでは里親であれ、一般の

家族であれ、待てないのは親や大人のほうであり、乱暴は生まれつきで

はないことを丁寧に示し、それへの

関わり方を明解に力説されている。

この書は、親子にならなければならぬ社会的養育に関する者にとって必携の書であると断言する。

光の子どもの家では、子どもを受

け入れたときからその子どもの家族

と私たちが家族になるという決意を

前提に関わってきている。それでも

欠けばかりにはたらきではあるが。

本書は子育てに当たる者全ての人

の必読書でもある。

第八章〈親子になること〉がむずかしいわけでは里親であれ、一般の

家族であれ、待てないのは親や大人のほうであり、乱暴は生まれつきで

はないことを丁寧に示し、それへの

関わり方を明解に力説されている。

この書は、親子にならなければならぬ社会的養育に関する者にとって必携の書であると断言する。

光の子どもの家では、子どもを受

2008年度も基準外職員確保

のためのバザーを行います。

バザー物品のご協力を

よろしくお願ひ申し上げます。

光の子どもの家バザー実行委員会

日誌抄 = 子どもと創る暮らしの風景 = 2007年12月1日▶2008年1月末日

2007年12月

幼稚3名 小学生18名 中学生6名 高校生8名 措置外4名
計40名

2日 第一アドベント

7日 正月の子どもたちの帰省に向けての家庭訪問開始

7日 サリドマイド児の自立を描いた「典子は今」の白井
典子さんが光の子どもの家で講演 夕食会を開き子
どもたちに貴重なメッセージの数々 今日を生きる
ことの大切さを経験から話して下さる それぞれの
明日に向かう子どもたちにエール 寄り添う私たち
の姿勢を今一度見直す

9日 第二アドベント

10日 熊谷児童相談所 訪問調査

13日 田村様 散髪奉仕 感謝

13日 大利根町被虐待児連絡協議会へ田中施設長が参加
町の家庭における様々な問題を協議 同時に関係機
関との連携をより深める貴重な機会

16日 第三アドベント 東洋英和女学院大学聖歌隊10名に
よる美しい讃美歌のプレゼント 感謝

16日 オレンジリボン運動市民パレードに田中施設長が参加
虐待死した子への鎮魂パレード

21日 高三有紀 就職内定

23日 第四アドベント 東埼玉バプテスト教会の方々によ
るキャロリング 感謝

24日 キャンドルサービス それぞれの大切なメッセージ
を交換する静かな夜

25日 クリスマス祝会 子どもたち全員によるイエス様の
降誕劇 親族やお世話になっている学校の先生方を
含めた大勢のお客様がいらっしゃる 卒園生も集
まり一年で一番にぎやかな光の子どもの家に 主の

恵みに感謝

28日 お餅つき みんなでついた熱々のお餅をほおばる
<12月の献品ご寄贈者>

坪井鉄鋼 藤田陽子 東洋英和女学院大学小学部 オフィスサブ
ライ三村 斎藤米屋 坂本若子 大利根町郵便局 愛育会 株
式会社ステラ 義本太一 小柳千晶 大橋清栄 仙道喜美子・
桂子 松本明子 木暮伸二 渋谷敬子 須藤喜代春 鳥取壽美
子 津守房江・眞 竹林茂 関わかこ 他多数の御各位様

2008年1月

5日 正月気分をぶっ飛ばそう会 新たな気持ちで新年の抱
負を語り合う

5日 高三乃衣 就職内定

16日 中学校との連絡会

21日 一月の誕生会 光の子どもの家で誕生者が一番多い月
たくさんのお祝いのメッセージ

26日 青山学院中等部長山本先生来訪 青山学院からは佐藤
家の名前の由来である青山学院大学名誉教授の故佐藤
信先生からサポート頂いている 高校生の不登校児等
についての相談をお受けする

29日 中三誠 志望校への入学願書提出 高いハードルに向
けてのラストスパート

30日 埼玉児童福祉研究会と施設長会の合同研修会へ田中施
設長が参加 県内の児童養護施設において発生した
様々な問題をうけての研修

<1月の献品ご寄贈者>

石井 杉山和俊 吉田 杉野 梅澤義一 ダイエー 北川辺キ
リスト教会 白井典子事務所 エヌピーエフ他多数の御各位様
☆年度の終わりに近づくにつれて子どもたちも一回り成長した
ように思います。皆様のお支えに心から感謝申し上げます。(洋)



☆春の陽気にさそわれた気の早いシ
マヘビがによろりと顔を出して子ども
もたちは大騒ぎしております☆今年
度の反省を踏まえ二〇〇八年度の準
備の真っ最中です☆今年度も中卒者
全員が公立高校へ進学いたします☆
高校を卒業する乃衣と有紀も就職内
定を頂いております☆皆様のお支え
に心より感謝申し上げます☆子ども
たちの新たな出発に際して出される
期待と不安の入り交じった心から発
せられる様々なメッセージ☆心には
心を傾けて応える共に暮らし合うも
のたちとの暖かい時間が何より必要
です☆高卒者の二人はここから職場
に通います☆自立の難しさを痛いほ
どの当たりにしてきたわたしたち
は彼女らの自立のために何ができる
か☆懸命の模索が続きます☆メール
に不具合が生じご迷惑をお掛けして
おりましたが光の子どもの家のメー
ルアドレスが変わりました☆表紙の
下段に記載されております☆二十三
度目の新年度を迎えるなる紙面の充
実に励んで参ります☆引き続きのご
支援とご指導ご鞭撻のほどよろしく
お願いいたします。

(洋)